

茨城県知事 殿

大子町立生瀬小学校長 原口 次夫

愛鳥モデル校活動実績報告書

令和元年度の愛鳥活動については、下記のとおり実施したので、愛鳥モデル校指定要項第9条第2項の規定により、その実績を報告いたします。

記

《報告事項》

本校は、県北山間部に位置する全校児童49名、教職員11名の小規模校である。

豊かな自然に恵まれ、校舎裏には約2.85畝の雑木林の学校林をもつ里山があり、「ふれあいの森林」と命名し、学校をはじめ地域から親しまれている。学校林を生かして、毎年4月～5月には地域の協力を得て、運動場の上空に鯉のぼりを多数たなびかせている。

平成26年度、そして28年度茨城県森林・林業体験促進事業「子どもの森づくり推進事業」で整備されたテーブル及びベンチ等のおかげで、多様な体験活動に取り組み、児童と保護者で楽しむことができるようになった。

本校は、愛鳥モデル指定校（平成29年度～31年度）を受け、裏山を主な活動場所として、身近な野鳥の観察等の中・高学年が中心となって取り組んでいる。

身近な自然を生かした活動としては、低学年の生活科では、「木の実集め」や「モミジの葉を用いたしおり」を行った。中学年の図工では、裏山の木を使い、「山道のサイコロゲーム」や「リスのどんぐりカレンダー」などの作品ができた。高学年では、総合的な学習や理科の学習で、「森の働き」の調べ学習や「野鳥観察」活動に取り組んでいる。

平成29年度からふれあいの森林の音楽会を計画し、保護者や地域の方の参観のもと、身近な自然（森林）の中で音楽に親しむ活動（合唱・合奏）を情操教育の一環として年間計画に位置付け、全校的に展開し、保護者も参加し、楽しんでいる。

身近な自然に親しむ機会が多い本校では、野鳥の鳴き声がよく聞かれ、野鳥に関する話題をもとに、野鳥の図鑑をもとにスケッチに取り組む児童が複数見られた。また、「愛鳥に関するポスター」に進んで応募し、4学年の小林蒼依さんが「特選」に入選することができた。

その他の活動として、毎週水曜日の「お昼の放送」時には『野鳥観察図鑑』から「鳥のさえずり」を校内・校外に放送を流しており、落ち着いた雰囲気の中で給食を食べることができている。



「野鳥コーナー」(2階廊下)



「こいのぼり集会」



「愛鳥に関するポスター」「特選」
4学年 小林蒼依さん



「ふれあいの森林音楽会」